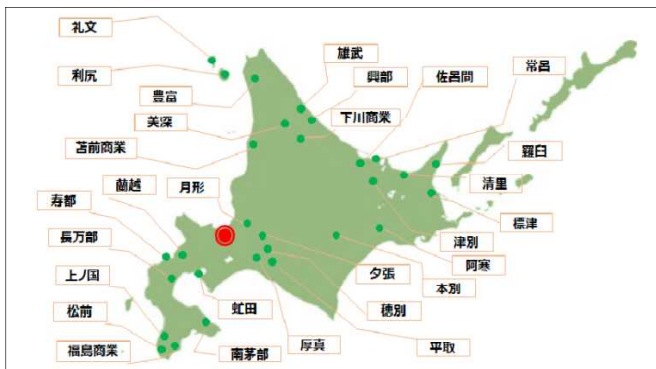


1 北海道

北海道の高等学校における遠隔授業の実際「夢は、地元でつかみ取る！」

北海道高等学校遠隔授業配信センター長 元紺谷 尊 広
(北海道有朋高等学校長)

1 北海道高等学校遠隔授業配信センターの開設



北海道教育委員会（以下、道教委）は、2021年（令和3年）4月に北海道有朋高等学校内に北海道高等学校遠隔授業配信センター（愛称「T-base[注1]以下T-base」）を開設した。T-baseは、小規模校でも生徒の興味・関心や、大学進学などの進路希望に対応した教科・科目を開設できるように遠隔授業を集中的に配信できる施設である。そこには遠隔授業を専門に行う教員が置かれており、授業以外に長期休業中の講習の配信や進学指導のサポート

もする。「夢は、地元でつかみ取る！」をスローガンに掲げ、地元の高校に通いながら希望する進路を実現できるよう支援している。令和4年度は、29校の道立高校に遠隔授業を配信している（上図）。

[注1]T-baseの由来～Tele Teaching（遠隔授業を）、Tied Triangle（配信センター、受信校、道教委の三者がしっかりと結びついて）、Tonden base（センターのある屯田[地名]から配信する）の頭文字をとって名付けられた。

2 遠隔授業配信センターの取組

遠隔授業の配信は、令和3年度の1年生から年次進行で開始され令和5年度に完成する。また、令和3・4年度については希望する学校に対し、2・3年生を対象とした遠隔授業も配信している。令和4年度の職員体制は、センター長1名（北海道有朋高等学校長が兼務）の下に次長（教頭）1名が配置され、配信業務の全体把握や受信校等との渉外業務を担当している。授業を担当する教員は16名おり、内訳は国語1、数学4、英語4、地理歴史1、公民1、理科2、音楽1、書道1、情報1。配信授業は、国語・数学・英語については基本的には習熟度別授業の応用クラスの授業を配信している。



箏の演奏を指導している音楽の遠隔授業

地理歴史や公民、理科については受信校に専門のいない科目の授業を希望に応じて配信している。また芸術については音楽と書道の授業を配信している。遠隔授業は、道教委が構築した教育クラウド基盤「ほっかいどうスクールネット」回線を通じ、テレビ会議システムの機器を活用し配信している。また、GIGAスクール構想の実現により、各高校にwifi環境が整ったことから1人1台のデバイス端末を併用した授業や、デバイス端末のみを活用した授業も行うことができるようになった。

3 遠隔授業の配信に関わる諸課題と今後の展望

少子化の進展により、受信校の増加が予想される。それに伴い、配信授業時数の増加、受信校の授業開始時間の調整、受信校における遠隔授業に立ち会う教諭等の負担等が考えられる。また、配信センターでは配置する教諭の確保や対面授業の実施に係る必要経費の確保等が課題となる。

道教委では、令和3年度から文部科学省の委託を受け「CORE ハイスクール・ネットワーク事業」に取り組んでいる。この事業は遠隔授業の取組やコンソーシアムの構築により、全道どの地域においても、多様で質の高い高校教育を実現するとともに、生徒の地域への理解を深め、ふるさとに誇りと愛着を持って、地域の発展に貢献しようとする人材の育成を図ることを目指している。